

執筆者紹介（掲載順）

青木 稔（あおきみのる）

1967年海上保安大学校卒業後、海上保安庁に入り、総務部教育訓練課長、第十管区海上保安本部長、海上保安大学校長などを歴任。2005年社団法人日本海洋少年団連盟専務理事に就任し、現在に至る。又、2004年より2006年まで海上保安大学校国際海洋研究センター客員研究員を務め、2003年から2006年までは国際会議「日印海洋安全保障ダイアログ（第1、2フェーズ）」に参加し、日本及びインドにおいて講演を行った。

合田 浩之（ごうだひろゆき）

東京大学経済学部経済学科卒。1991年日本郵船(株)入社。現在、経営企画グループ経営企画チームに所属し、(株)MTI 技術戦略グループ（プロジェクトマネージャー）を兼任。その間、(株)日本飛行船取締役等を歴任する傍ら、筑波大学大学院博士課程ビジネス科学研究科を修了し、法学博士号を取得。東海大学海洋学部航海学科国際物流専攻や一橋大学商学部で教壇に立つ。近年の論文としては、「ABL融資と倉庫証券」、「欧州統合 日本海運からの視点」、「補油港の研究」、「Asset Based Lendingと物流事業者への可能性」及び「便宜置籍船—その法的・経済的意義の再検討—」（山縣記念財団『国際海運と国際物流の新地平』所収）などがある他、『Q&A貿易実務トラブルマニュアル』、『貿易商務の新展開』などの共著作がある。日本海運経済学会、日本港湾経済学会、日本貿易学会、日本物流学会、国際商取引学会会員。

山田 吉彦（やまだよしひこ）

学習院大学経済学部卒。埼玉大学大学院修了。博士(経済学)。金融機関勤務を経て、1991年から日本財団（日本船舶振興会）勤務。海洋船舶部長、海洋グループ長、広報チームリーダーなどを歴任。現在は東海大学海洋学部准教授を務める傍ら、海洋政策研究所研究員を兼務する。日本を取り巻く海にかかわる様々な問題に取り組んでおり、日本の海上保安体制、現代海賊問題などのエキスパートとして、『天気を読む日本地図』、『海のテロリズム』、『日本の国境』、『海賊の掟』など多くの著書や論文がある他、テレビ出演や講演でも活躍中。日本航海学会、日本沿岸域学会会員。

石黒 行雄（いしぐろ ゆきお）

1961年早稲田大学第一商学部を卒業後、山下汽船(株)入社。山下新日本汽船(株)東京支店、ニューヨーク駐在員、太平洋岸首席駐在員、日本ライナーシステム(株)北米法人会社社長、総務部長などを歴任した。その後日本郵船(株)を経て、現在、日米教育委員会・日本フルブライト・メモリアル基金シニア・アドバイザーを務める。又、横浜国立大学大学院にて国際経済法修士課程及び国際社会科学研究所国際法専攻博士後期課程を修了（学術博士号を取得）。博士論文は「定期船海運の法政策に関する比較研究～海運の公共性から見た競争法適用除外の擁護～」。同論文は2008年山縣勝見賞を受賞し、2008年4月より(財)山縣記念財団研究員となる。日本海運経済学会、国際経済法研究会会員。

林 克彦（はやし かつひこ）

1984年東京工業大学理工学研究科修士課程修了。日通総合研究所、流通科学大学商学部教授などを経て、2007年より流通経済大学流通情報学部教授。専門分野は物流論、国際ロジスティクス論。情報化、国際化、環境問題、規制緩和などにより、物流がどのように変わっていくのかに関心をもって研究している。共著作に『現代企業のロジスティクス』、近年の論文に「航空貨物輸送事業者によるグローバル・ロジスティクス・サービスの展開」（2007年度 日本海運経済学会賞受賞）、「アメリカにおける3PLビジネスの発展」、「グローバル・ロジスティクス事業再編とその背景」などがあり、日本物流学会、日本交通学会、日本海運経済学会、日本港湾経済学会で活躍中。

森 隆行（もり たかゆき）

大阪市立大学商学部卒。1975年大阪商船三井船舶(株)入社。大阪支店輸出二課長、広報課長、営業調査室室長代理、AMT freight GmbH (Deutschland) 社長、(株)丸和運輸機関社長室長兼海外事業本部長、(株)商船三井営業調査室主任研究員などを歴任の後、大学教員に転じ東京海洋大学や青山学院大学の講師を経て2006年からは流通科学大学商学部教授。海運・物流の各分野に亘って関心範囲が広く、『外航海運とコンテナ輸送』、『外航海運概論』、『豪華客船を愉しむ』、『戦後日本客船史』（2006年度住田海事奨励賞受賞）『現代物流の基礎』、『まるごと！船と港』などの著書や多くの論文・エッセーなどを通じ、海事文化の啓蒙に貢献している。日本海運経済学会、日本ロジスティクスシステム学会、日本物流学会、日本貿易学会、日本港湾経済学会などに所属。

鈴木 暁（すずき ぎょう）

1963年法政大学社会学部卒。神奈川大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。(財)日本関税協会、(財)港湾労働経済研究所、東芝情報システム(株)勤務の後、広島商船高等専門学校助教授、次いで教授となる。その後、港湾職業能力開発短期大学校で教鞭をとり、現在は同短期大学校、日本大学商学部、中央大学商学部で非常勤講師を務める。『国際物流の理論と実務』（単著）、『現代物流概論』、『現代の内航海運』（以上共著）などの著書及び「フォワーダーの限界と可能性」、「海貨業における3PL導入の可能性と課題」、「コンテナ輸送のセキュリティに関する考察」などの論文がある。日本港湾経済学会、日本海運経済学会、日本物流学会、日本貿易学会会員。2007年より(財)山縣記念財団評議員。

柴田 悦子（しばた えつこ）

大阪市立大学名誉教授。商学博士。大阪女子経済専門学校(現大阪経済大学)を経て、1951年大阪商科大学(現大阪市立大学)卒。同年大阪商科大学商学部助手となり、経済政策分野を担当。その後交通論特に海運論や物流経済論を担当するが、港湾の研究にも傾倒した。現場に取材したフィールドワークや、国際物流研究者間の共同研究にも力を入れ、その成果は、『港湾経済』、『現代の港湾』、『国際物流の経済学』、『交通論を学ぶ』、『現代の交通政策を問う』、『物流経済を考える』といった著作となって結実した。大阪市立大学教授定年退官後は下関市立大学、名城大学でも教鞭を取り、2000年退職。現在、日本港湾経済学会顧問、日本海運経済学会名誉会員、日本交通学会会員。

(敬称略)